

和菓子型 + 和紙でアート

酒々井のギャラリー100点展示

和菓子用の木型を和紙で型取りしたアート作品約100点を並べた展覧会が酒々井町の「きのえねまがり家ギャラリー」で開かれていく。10日まで。

佐倉市に住む現代美術作家の永田哲也さんが制作した。全国で集めた江戸・昭

和期の木型に和紙を何層にも重ねて型取りした「和菓紙三昧」シリーズの作品だ。天井からタイをつるしたモデルや、花やチョウなどを組み合わせた約1・8畳四方の大型作品などが展示されている。

木型はらくがんなどを作るために用いられたもの。

日本の祝い事の伝統などを表現するため、鶴や宝船といった縁起物をモチーフにした木型を多く用いた。展示を担当した同ギャラリーの今井梨絵さん(46)は「紙の表情や、木枠から移った色などは一つ一つ異なる。じっくりと鑑賞して、作品に込められた歴史や記憶を感じてほしい」と話した。

午前10時〜午後5時。10日は午後3時まで。入場無料。作品は購入も可能。



会場の壁に設置された大型の和紙製作品（7日、酒々井町で）